

親子支援だより ほっと通信

11月号 No.7 平成29年11月1日 浜松学院大学付属幼稚園

【発行】教頭：山梨明子 【添文】心の相談員：中島祐子

毎日、家事や育児を頑張るお母さん。このおたよりを読みながら・・・

①ほっとひと息ついて ②ホッと安心し ③ホット (HOT) な温かく優しい気分
に包まれますように・・・ いつでも応援しています！共に歩みましょう。

唐突ですが、皆さんは『何かの臭いを感じると、いつかの風景や記憶がよみがえる…』という事はありませんか？私は、毎年 10 月中旬になると、キンモクセイの花の香りを感じた瞬間に、幼少期に参加した地元の秋祭りの景色がよみがえってくるのです。その記憶は、風景だけではなく、笛や太鼓の音や、一緒に参加していた友達や大人たちの姿や表情や声までが有りありと心の中に浮かび上がってくるのです。ところが、今年は季節外れの台風により、キンモクセイの花の香りを感じることなく過ぎてしまったのです。なぜそのことに気が付いたかという、先日、道路に落ちたキンモクセイの枯れた花が目にとまったからです。もちろん香りはしません。そして、「今年は秋祭りの事を思い出さなかったなあ。しかも、いつものように音や声までよみがえってこないなあ…」という感覚に至ったのです。とりとめのないちっぽけな事でしたが、何とも寂しいような不思議な気分になった私。まるで、今まではキンモクセイの花の香りが、記憶を思い起こさせてくれていたような気がして。それでも、何とか目を閉じ心の内側に耳を傾けると、かすかに祭囃子や人々の声が聞こえてきました。そうして私は「あ、良かった。まだここ(心の中)にいる。」そんな気持ちになったのです。

最近「今年は色々な事が例年通りとはいかないなあ…」と苦難を感じていた自分にとっては、この枯れ落ちたキンモクセイの花が「そんな時もあるけど大丈夫。大事なものは自分の中にちゃんとあるはず。雑多に惑わされず、自分を見失うことなく、心の声をしっかり聴いて…」というメッセージを与えてくれたような気がしました。たかがこんな出来事なのに、大げさなあって感じるかもしれませんが、私にとって、自分の中に潜む記憶は、ある時は苦痛となり、ある時は自分を鼓舞したり…と影響が大きい存在なのです。

以前に読んだ『未来のだるまちゃんへ：かこさとし著』の本にも「幼少期に自然や人とたわむれた記憶は鮮明であり、その当時、存分に遊んだり失敗したり叱られたり試したりした体験のひとつひとつが自己形成につながった」というような言葉がありました。まさにその通りだなあと思うのです。子ども時代に体験したこと。感じたこと。考えたこと。大人から示されたこと…。良くも悪くも子どもながらに自分で吸収して、生きる力を蓄えていくのだなあと感じます。そして、まさに幼稚園の子どもたちが、その真っただ中にいるわけ。だからこそ、出来る限りの感動体験(人や事象との素敵な関わり)をさせてあげたいと強く思うのです…！

11月のカウンセリング予定

- ★11月2日(木) 空きはありません
- ★11月16日(木) 空きはありません
- ★11月30日(木) 13:00~のみ

予約可能です

12月のカウンセリング予定

- ★12月7日(木) 9:00~
- 11:00~
- ★12月14日(木) 13:00~

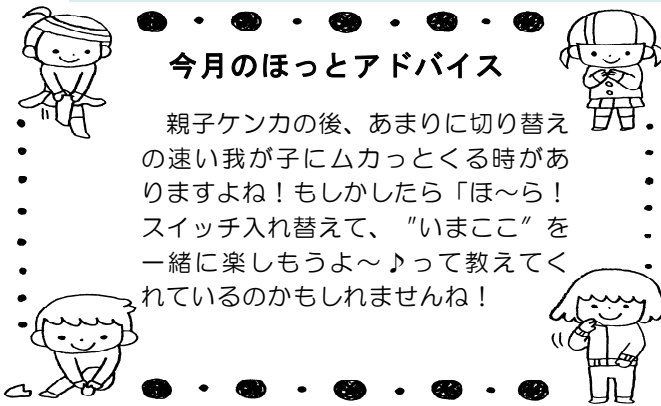
上記3つの時間帯が予約可能です

皆さん、いかがお過ごしですか？この原稿を書いている今は季節外れの大型台風接近中、嵐の前の静けさのような天候です。子育ての日々も天候と同じ。穏やかな日和もあれば大荒れになることもありますね。嵐に備え、じぶんなりにできるだけ準備をしても、予期せぬ事態に見舞われることもあります。

長男の白組の3学期のことです。喘息体質だった息子は、風邪から咳喘息を引き起こし入院となってしまいました。ちょうど発表会の数日前に退院し、何とか当日に間に合うことができました。練習にほとんど参加できないまま臨んだ本番、親としてはドキドキハラハラ…そんな心配をよそに息子は、発表会の間中その場に立ち尽くし、ニコニコと他の子ども達の劇を楽しそうに鑑賞していたのです！初めての白組の発表会…親としては、発表会の前に我が子の体調管理をしてあげられなくて、本番でみんなと動くことができず、申し訳なく不慣れた気持ちになっていました。けれども、担任の先生がおたより帳に書いて下さったメッセージを読み、はっとしたのです。「Yくんは、それは楽しそうにみんなの動きを見ながら一生懸命参加していましたね！Yくんの様子を見て、私も心から嬉しくなりました！」仲良しの友達ママからも「Yくんはほとんど練習できなかったのに、みんなの前で最後まで堂々と一緒にいれて、本当にエラかったね！」と声をかけてくれたのです。「ああ…そうだった！確かに息子なりに参加していたんだ！息子自身があの時間を心から楽しんでたこと、それが一番大事なことなんだな…みんなと同じようにできるとかそういうことじゃない！入院だって、可哀想とか幼稚園行けなくて残念だけじゃなくて、病室で一緒にゆっくり我が子と過ごせたことだって貴重な時間だったのだなあ…」一連の出来事の明るい面が照らし出されたようで、息子への愛おしさでいっぱいになりました。先生や友人の温かなまなざしを通して、ひとつだけの側面から物事を捉えてしまうと、他の良いことが見えなくなってしまうことに気づかせてもらいました。

今は24歳の息子ですが、園生活の最初に出会ったこの先生と友人ママのことを「自分のことを丸ごと大事に受け入れてくれた大人」として覚えているということ…この温かなご縁が家族以外の他者への信頼感の芽生えに繋がっていたのだなあ、感謝でいっぱいです。子育てが終了した後の親と子それぞれの人生に於いても、この世に生きている限り、不本意な事は起こります。子ども達が大人になる頃の日本や世界にどのような状況が待っているか、誰も分かりません。先のエピソードから私たち大人ができることを考えてみると、どのような時も物事の明るい側面を見つけながら、希望を携えて自分なりに生きていく姿を、人生の先輩として日常の中で見せていくこと…そんな大人の在り方が、子ども達の幸せに繋がっていくのではないかな…とここまで書いたところで、もしかして幼い子ども達の方が、よっぽどそれが上手なかもしれない！と気づかされました。時として子ども達は、柔軟で純粹だからこそ前向きで、大人を導いてくれる『師』となってくれることが確かにあるのですよね！

心の相談員：中島祐子



今月のほっとアドバイス

親子ケンカの後、あまりに切り替えの速い我が子にムカつく時がありますよね！もしかしたら「ほ～ら！スイッチ入れ替えて、“いまここ”と一緒に楽しもうよ～♪って教えてくれているのかもしれないね！

未就園のお子さんを連れて カウンセリングに来園される方へ

託児を担当して下さるお母さん(卒園児の保護者様です)がいらっしゃいます。どんぐりクラブと一緒にプレイルームや園庭でお子さんを遊ばせながら、楽しく安全にお子さんをお預かりし、親御さんが集中してカウンセリングを受けて頂けるようサポート致します。1回1,000円の実費となりますが、ご希望の方は、カウンセリング予約時に託児希望も併せてお知らせ下さい。

◎カウンセリングは守秘義務を厳守します。また、カウンセリングの対象は付属幼稚園の保護者様となります。予約の際は、在園保護者様を優先しますが、空き状況により、未就園児活動に参加している保護者様(当園に入園予定の方)と、当園卒園の保護者様に限り、予約をお受けすることができます。ご理解の程、よろしくお願いたします。

◎カウンセリングの予約は、幼稚園に電話(☎72-5193)をし、希望の日時をお知らせください。その場で空き状況をお伝えして日時を決定します。1回のカウンセリングは50分間の予定です(幼稚園の会議室で実施します)

